

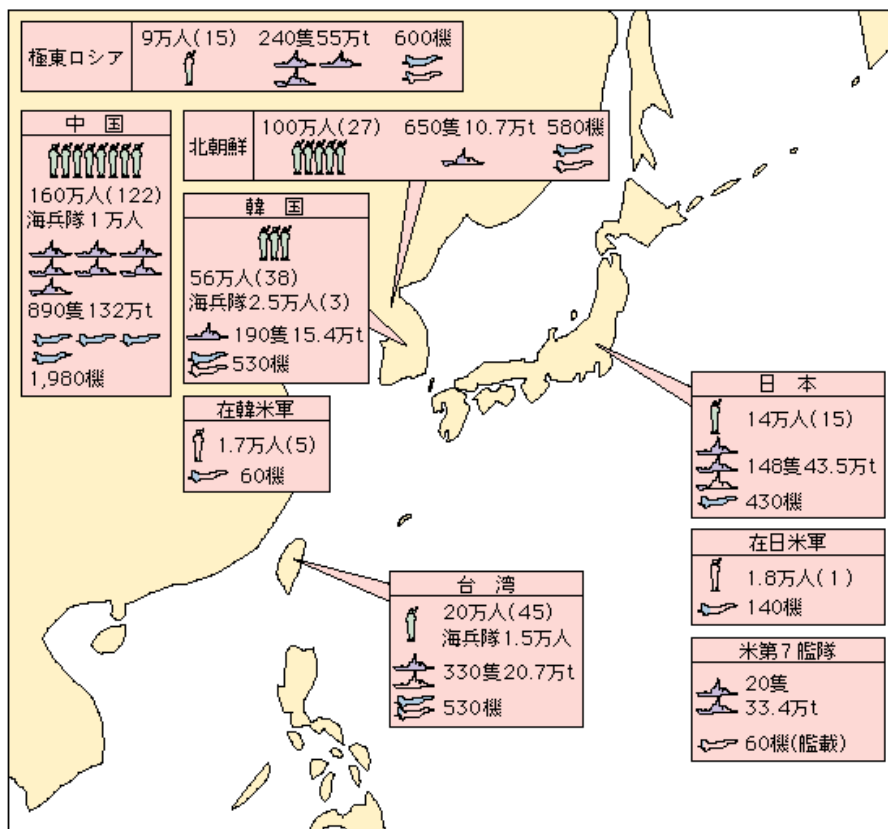
## 防衛白書を読み解く No.1 【アジア太平洋地域における主な兵力の状況】

ー平成 21 年度防衛白書ダイジェスト版※(インターネット) に学ぶー

※ [http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho\\_data/2009/w2009\\_00.html](http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/2009/w2009_00.html)

防衛白書の第 1 部わが国を取り巻く安全保障環境を見ますと、「概観 2 わが国周辺の安全保障環境」において、「アジア太平洋地域では、中国やインドなど、急速な経済発展を遂げている国がみられ、経済面を中心として、この地域への世界的な関心が高まるとともに、域内各国間の連携・協力関係の充実・強化が図られてきている。他方で、この地域は、政治体制や経済の発展段階、民族、宗教など多様性に富み、また、冷戦終結後も各国・地域の対立の構図が残り、さらには、安全保障観、脅威認識も各国によってさまざまであることなどから、冷戦終結に伴い欧州地域でみられたような安全保障環境の大きな変化はみられず、依然として領土問題や統一問題といった従来からの問題も残されている。」との記述があり、アジア太平洋地域における主な兵力の状況を以下の通り示しております。

図表 1-0-0-1 アジア太平洋地域における主な兵力の状況(概数)



- (注) 1 資料は、米国防省公表資料、ミリタリーバランス(2009)などによる(日本は平成20年度末実勢力)。  
 2 在日・在韓駐留米軍の陸上兵力は、陸軍および海兵隊の総数を示す。  
 3 作戦対機については、海軍および海兵隊機を含む。  
 4 ( )内は、師団、旅団等の基幹部隊の数の合計。北朝鮮については師団のみ。台湾は憲兵を含む。  
 5 米第7艦隊については、日本及びグアムに前方展開している兵力を示す。

凡例

陸上兵力 (20万人)	艦艇 (20万t)	作戦対機 (500機)
-------------	-----------	-------------

H21 防衛白書の資料編には、以下の資料 3 に示すような主要国の兵力一覧（概数）があり、主要な国・地域の兵力が、大きな順に整理されております。これによれば、日本の兵力は、陸上が 16 位以降、海上が 6 位（図表 1-0-0-1 のデータからは 5 位）、航空が 12 位となっていて、決して小さなものではありません。

この表に、アジア太平洋地域に関与するとして国、地域としてロシア、中国、北朝鮮、韓国、台湾、日本に印をつけてみました。防衛省がその動向を注視する北朝鮮、中国、ロシアの兵力は、極東ロシアの兵力が陸上 9 万人、海上 240 隻 15.4 万トン、航空 600 機ということ踏まえても、数値から見る限りでは日本を上回るまたは拮抗する兵力を保有する国々と言えるでしょう。

資料 3 主要国・地域の兵力一覧（概数）

陸上兵力		海上兵力			航空兵力	
国名など	陸上兵力 (万人)	国名など	トン数 (万トン)	隻数	国名など	作戦機数
中国	160	米国	602.2	945	米国	3,890
インド	110	ロシア	202.8	1,040	ロシア	2,180
北朝鮮	100	中国	132.3	885	中国	1,950
パキスタン	55	英国	81.9	236	インド	660
韓国	54	フランス	42.5	260	北朝鮮	580
米国	54	日本 → インド	34.4	152	シリア	560
ベトナム	41	インドネシア	24.1	201	トルコ	540
トルコ	40	トルコ	21.7	200	韓国	530
ロシア	40	台湾	20.7	327	台湾	530
ミャンマー	38	ドイツ	20.4	129	エジプト	520
イラン	35	スペイン	19.1	100	日本 → イスラエル	470
エジプト	34	イタリア	17.2	170	フランス	430
ブラジル	24	ブラジル	16.8	89	パキスタン	400
インドネシア	23	オーストラリア	15.8	77	リビア	380
日本 → コロンビア	22	韓国	15.4	186	英国	370
日本	13.8	日本	34.5	150	日本	430

(注) 1 資料は、陸、空については「ミリタリー・バランス (2009)」など、海については「ジェーン年鑑 (2008~2009)」などによる。

2 日本は、平成 20 年度末における各自衛隊の実勢力を示し、作戦機数は航空自衛隊の作戦機（輸送機を除く。）及び海上自衛隊の作戦機（固定翼のみ）の合計である。

3 配列は兵力の大きい順になっている。

防衛白書では「領土問題や統一問題といった従来からの問題」について、北朝鮮、中国、ロシアに関して以下のように述べております。

- 今後の北朝鮮側の動向については、金正日国防委員会委員長の健康問題や後継問題などが体制に与える影響も考慮しつつ、引き続き注視していく必要がある。
- 中国の軍事に関する透明性の一層の向上が求められており、中国との間で対話や交流を促進し、相互理解と信頼関係を一層強化していくことが重要な課題となっている。また、最近では、複数の軍高官が空母の保有に肯定的な発言を行っているほか、わが国周辺における海洋活動を活発化させており、わが国として注視すべき事象が生じている。
- 極東においても、引き続き、ロシア軍の艦艇および航空機が練度の回復を図る中にあって活発な動きをみせている。

アジア太平洋地域における安全保障環境において、これらの領土や統一といった問題があるために、相手国の兵力に対抗できる力が日本にも必要となるので先中国の記述には「対話や交流を促進し、相互理解と信頼関係を一層強化していくことが重要」とありますが、この点は防衛省が率先して対応できる課題ではなく、日本をはじめとして世界の人々による一層の努力が必要ですね。兵力に頼ることなく私たちにできることがあるはずなので、考えて見たいと思います。

参考として、防衛白書にあった資料を整理して以下の事項がわかりました。

- 海上兵力を1隻あたりのトン数でみると、北朝鮮は日本の1/10以下、中国は1/2程度、ロシアは概ね同等であり、日本の海上兵力はかなりなものである
- ロシアは兵力の1/4程度を極東に振り向けており、かなりの兵力が極東にある
- 米国の海上兵力は1隻あたりのトン数が日本の5倍程度と大型艦艇を配備している
- 兵力の比較は、数量だけで比較することはできず、数量×性能を行う必要がある

参考の表 防衛白書資料による兵力に関する整理

区分	項目	単位	日本	米国	台湾	韓国	北朝鮮	中国	ロシア	
アジア太平洋	陸上兵力	人	140,000	35,000	200,000	560,000	1,000,000	1,600,000	90,000	
	海兵隊		-	-	15,000	25,000	-	10,000	-	
	海上兵力・艦艇	隻	148	20	330	190	650	890	240	
	作戦機	機	43.5	33	20.7	15.4	10.7	132	55	
総数	陸上兵力	人	138,000	540,000	-	540,000	1,000,000	1,600,000	400,000	
	海上兵力・艦艇	隻	150	945	327	186	-	885	1040	
	航空兵力・機数	機	430	3890	530	530	580	1950	2180	
解析	艦艇のトン数平均	トン/隻	293.9	1670.0	62.7	81.1	16.5	148.3	229.2	
		総数	230.0	637.2	63.3	82.8	-	149.5	195.0	
	アジア太平洋への配分比率	陸上兵力	人	101%	6%	-	104%	100%	100%	23%
		海上兵力・艦艇	隻	99%	2%	101%	102%	-	101%	23%
			万ト	126%	6%	100%	100%	-	100%	27%
	航空兵力・機数	機	100%	7%	100%	100%	100%	102%	28%	
備考	・「-」は防衛白書への記載なし ・米国は、アジア太平洋エリアを在日米軍、米第7艦隊、在韓米軍に区分した記載があるが、この表では合算している ・日本の海上兵力のトン数がアジア太平洋と総数が一致しない理由は不明									